

科目名 Course Name	ピアノ演奏法 I Piano performance method I			ナンバリング No.	K1-011		
年次	1 年	期別	前期	単位数	1	授業形態	演習
担当者氏名	岡泉志のぶ 川田将人 中沢充恵 山田飛鳥 川島麻祐未						
連絡方法	C-ラーニングで対応。オフィスアワーは授業担当時間以外。						
必修/選択	選択(保育士養成課程選択必修科目)						
関連 DP	DP2、DP4、DP5						
授業の概要と到達目標	<p>子どもの幼児期の成長過程における音楽教育は非常に重要であり、多くの保育園、幼稚園で音楽は生活全般に取り入れられている。この授業では、保育の現場で必要な基礎的なピアノ演奏法、テクニック、伴奏法の習得を目標として、ピアノ未経験者や初心者もバイエル教則本を使用し、それぞれのレベルに合わせた指導を個人レッスン形式で行う。また個々の進度に合わせた課題を与えることにより、子ども達に音楽的な表現を豊かにする指導が出来るようになるためのピアノ基礎技術の習得を図る。この授業の到達目標は以下 4 つである。</p> <p>①保育現場にピアノ技術は必須であるという意識を持ち、ピアノの練習を習慣化できるようにする。 ②音楽に関心を持ち、ピアノ演奏を通して表現する楽しさを味わうことができるようにする。 ③音楽の基礎理論(音符や休符、リズム、拍子など)を覚えて、幼児曲を伴奏できるようにする。 ④授業内容に沿って、バイエル教則本 70 番台の曲を終了できるようにする。</p>						
授業の方法	<p>演習(実技)科目であり、個別指導を基本として個人レッスン形式で行う。初心者クラスの学生(事前調査により判断、入れ替えあり)は個人レッスンに加えて楽典講座を受講する。 授業では各学生の能力に応じた教材や進度を的確に判断し、グループ演奏発表も含め個々に適した以下の授業内容と方法で進めることとする。 以下には標準的(ピアノ未経験者、初心者に適した)授業計画を示す。</p>						
学習成果	L01	ピアノ練習の習慣化を身につけ、ピアノを弾くことの楽しさや達成感を得ることができる。					
	L02	ピアノの基本である読譜力をつけることができる。 基本的な伴奏法を用いた簡単な幼児曲の伴奏や他の楽曲を演奏することができる。					
	L03						
	L04						
課題に対するフィードバック	個々の学生のレベルに応じて課した技術的課題について、毎回授業内でフィードバックする。発表については、終了時と最終授業日に講評する。						
教科書/参考図書	<p>テキスト:バイエル教則本(全音楽譜出版社)、ブルグミュラー25の練習曲(全音楽譜出版社) ソナチネアルバム、(全音楽譜出版社)、ソナタアルバム(全音楽譜出版社)、他 C-learning:楽曲解説、解説動画、ドリル</p>						
履修上の留意点やルール等	<p>●短い時間でも毎日ピアノに触れ練習すること。●使用教室への飲食持ち込みは禁止とする。 ●事前、事後学習に費やす時間は 45 分とする。</p>						
担当教員の実務経験	●主担当:岡泉(職種:ピアノ講師 職歴:通算 20 年)、担当教員(非常勤講師):ピアノ講師歴あり ピアノ講師としての実務経験を、学生が保育の現場に必要なピアノ演奏技術の習得に活かす。						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	毎回与えられた課題を日々練習して授業に臨んでいる。	30			
レポート/作品					
発表					
小テスト					
試験	実技試験を実施する。課題曲 1 曲を演奏し、読譜力、曲の難易度と表現力で採点する。複数の担当教員が採点した点数の平均点を評価とする。		50		
その他	曲の進度による評価をする。初心者でもバイエル 70 番程度を弾くこと。		20		
合計		30	70		

回数		授業計画
1	授業内容	授業概要、評価方法の説明、受講する際の注意 担当別:教材の選定と課題提示
	事前・事後学習	各自与えられた課題と練習方法を理解して練習する。また、生活の中でピアノを弾く時間を確保できるように今後のプランを立てる。Web 資料:「ピアノ演奏の基礎知識」熟読
2	授業内容	音符と休符の種類(バイエル 10~30 番台)
	事前・事後学習	音符と休符について復習する。ドリル:ト音記号①
3	授業内容	音符と奏法 リズムと拍子(バイエル 10~30 番台)
	事前・事後学習	へ音記号の楽譜について復習する。ドリル:ト音記号②及びへ音記号①
4	授業内容	運指について 両手の奏法(バイエル 30~50 番台)
	事前・事後学習	レガートで弾くための運指を守り、楽譜通りに練習する。 ドリル:ト音記号②及びへ音記号①
5	授業内容	ハ長調の理解と各曲の習得① 楽譜の確認(バイエル 40~50 番台)
	事前・事後学習	ハ長調について復習する。ドリル:へ音記号① Web 資料:「和音について」熟読
6	授業内容	ハ長調の理解と各曲の習得② リズムと拍子(バイエル 40 番~50 番台)
	事前・事後学習	ハ長調の左手伴奏パターンを練習する。 Web 資料:「和音について」復習 ドリル:へ音記号①及び混合①
7	授業内容	これまでの振り返りと今後の計画
	事前・事後学習	各自の課題を受け入れ、注意点を意識して練習する。ドリル:へ音記号①及び混合①
8	授業内容	長調と短調(バイエル 50~60 番台)
	事前・事後学習	解説動画:「短調について」視聴 ドリル:混合②
9	授業内容	調性について 各曲の習得(バイエル 60~70 番台、他) ト長調
	事前・事後学習	解説動画:「調性について」視聴 ドリル:大譜表①
10	授業内容	各曲の習得(バイエル 70 番台、他)
	事前・事後学習	♯調号の意味を復習する。ドリル:ト音記号③
11	授業内容	各曲の習得(バイエル 70 番台、他)
	事前・事後学習	調号に注意して課題曲の練習をする。ドリル:へ音記号②
12	授業内容	実技試験の課題曲の指導①
	事前・事後学習	各自、課題曲の指導されたポイントに留意して練習する。ドリル:ト音記号④
13	授業内容	実技試験の課題曲の指導②
	事前・事後学習	音だけでなく楽譜上の指示や運指も含め暗譜する ドリル:ト音記号⑤
14	授業内容	実技試験の課題曲の指導③
	事前・事後学習	楽曲の完成度を上げて練習をする。
15	授業内容	実技試験と講評 今後の計画と課題曲の説明
	事前・事後学習	学習した教本の復習と夏季休業中の課題に取り組む。